

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394900035		
法人名	有限会社 愛和		
事業所名	グループホーム サンライフハートネス 1F		
所在地	愛知県日進市米野木町追鳥47-1		
自己評価作成日	平成28年11月30日	評価結果市町村受理日	平成29年 4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kanji=true&JigyosyoCd=2394900035-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしい生活の場となるように家庭的で暖かい生活空間として過ごして頂けるように生活をサポートしています。ご家族とも連携を取りご利用者の方一人一人のペースに合わせた生活を提供しています。地域のボランティアの方、地域の保育園児との交流会など少しずつ外部の方と交流する機会を設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から5年が過ぎ、事業主が地元出身であることもあり、地域に根付いて来ている。地域の米野木祭りの際、馬や踊りの会が立ち寄る等、慣れ親しんだ行事は利用者の楽しみとなっている。保育園の子ども達が訪問して一緒に手遊びをしたりして、利用者を楽しませている。来年は中学生の体験学習の受け入れを前向きに検討し、より地域との交流に努めようとしている。

併設された小規模多機能型事業所での書道教室、フラワーアレンジメント教室の他、ボランティア行事にも参加でき、多くの催し物がある。長く勤めている職員が多く、職員間の人間関係の良さが、利用者への心遣いに繋がっている。利用者の介護度が上がってきており、今年度一人の看取りを行った。看取りを実施して、改めて職員への研修の必要性を感じている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人研修では理念についての資料を渡し研修という形をとっている	理念は、具体的で分かりやすい内容が箇条書きにされており、各フロアーに掲示されている。新人研修をはじめ、職員会議等でも理念についての話し合いを行っている。折に触れ、「理念に沿った支援であるか」を意識するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りには地域の方にボランティアで日本舞踊を行って頂きました。また、冬にはおこしもの作りを教えて頂き利用者様と一緒に行いました。今年も、保育園児との交流会を行いました。また、お米は地域の方から購入しています	地域行事の米野木祭りでは、馬や子ども達の踊りの訪問を受けたり、恒例となった保育園児との交流会が行われたりしている。今年度は、地域の人からの情報でセラピー犬と触れ合う会や、おやじバンド等の新しい試みも始めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の認知症の方への理解はまだ得られていない部分がある。民生委員の方、包括の方にも協力して頂き関わり合いも増えてきた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第3水曜日に行っている。参加して頂いた方からの意見や考えを聞かせて頂き施設に反映している	会議には、市の職員、地域包括支援センター職員、民生委員が毎回参加しており、多くの提案が出ている。映像を使用して、利用者の日常の様子を紹介も行っている。今年度、会議での話し合いから災害対策の備蓄を整備することができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険法改正時や事故報告など介護関係の書類等わからないことがあればその都度相談して教えてもらっている	市町村へは、各種手続きや事故報告等で訪れ、ホーム運営に益する情報を得ている。市の介護相談員が2～3か月に一度訪問し、利用者の話を聞いている。今後は、市で行っている研修会等への参加も前向きに捉えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には行っていません。入所契約時には身体拘束の同意書を頂いています	身体拘束の研修を行い、職員への周知を図っている。車椅子やベットからの転落・転倒の危険等、特別な状況がある場合には家族へ説明し、了承の上で拘束を行うこともある。言葉での拘束を会議で話し合い、見受けられた場合にはその場で注意をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者虐待については毎年必ず研修を行っている。どのような行為・言動が虐待にあたるのかなどの内容で行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方は現在見えませんが職員は理解していく必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に注意する点、重要事項についてはご家族様に説明し、納得したうえで入所して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見や要望についてはできる限り施設に反映している	利用者の思いについて、家族から面会時や連絡を取る機会に聞き取っている。利用者からは、日常会話の中から要望を尋ね、食事内容等については、出来る限り速やかに反映させている。誕生日の外出先等も、家族、利用者双方の意見を取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議などで職員の意見を聞き業務を進行しやすいようにしている。職員間での意見の食い違いなどは双方の話を聞き改善できるよう対応している	職員会議や個別面談等で、職員の意見を聞く機会を設けている。今年度、職員からの提案で朝食にパン食を導入しており、利用者から好評である。モーニングを地域の喫茶店で楽しむ事もしている。職員間の関係が良いので、提案も多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力、性格や勤務状況、利用者様のことを考えた支援、接し方などから給与や賞与を判断している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月違ったテーマで研修を行っている。穴埋め問題形式になっている資料を使っている。外部の研修は希望者のみ受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会や市が主催した連絡会、交流会にて意見交換を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約する前にご本人様にも施設内の様子や雰囲気を知って頂くために一度見学に来て頂くようお願いしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約をする前に見学に来ていただきご家族が日常生活で困っている事やご本人様の普段の様子など聞かせて頂いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学に来られた際にご本人様の普段の様子など話を聞かせて頂いたうえでグループホームよりも在宅で支援できそうである場合は小規模多機能や訪問介護を薦めることもある。また、医療の必要な方は有料老人ホームを薦めることもある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者に対し一方的な関係になるのではなくご利用者の意見を尊重するように職員に伝えている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者と家族との関係が希薄化することのないように面会や行事に参加していただくようお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限は特にしていないので友人や知人が面会に来られることもある。ただし、ご家族の強い希望でご家族以外の面会をお断りする場合もある	知人へ電話をかけたり、年賀状を出す等、馴染みの関係継続の支援を行っている。古くからの知人の面会がある利用者もいるが、併設の小規模多機能事業所で知り合い、新しく馴染みとなった友人を訪ねる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルに関してはスタッフが間に入り対応している 席の配置などで工夫を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたあとも利用されていたかたのご家族が施設へ来られたりすることがある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握が難しい場合もありますが、本人様の表情であったり行動・仕草で判断している	思いを聞き取れる利用者からは、行きたい所や食べたい物等について聞いている。歌が好きな利用者には入浴の時等に音楽をかけて楽しんでもらっている。伝えることが困難な場合には、家族から生活歴を聞き、本人の立場や気持ちを考えながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所される以前の生活歴やサービス利用状況などはご家族や他福祉サービスの担当者にお話を聞かせて頂く		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員はご利用者の日常の様子や心身の状況など把握し変化が見られた場合には職員から管理者へ報告があり、管理者からご家族へ連絡している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月各フロア会議でご利用者の変化や個別ケアについて話し合いを行っている	会議で意見を出し合い、モニタリングを行って家族からも要望や意見を聞き、介護計画を作成している。基本的に6ヶ月毎の見直しを行うが、状態変化があれば随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や介護記録、または排泄チェック表や水分・食事摂取表等で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族対応で病院受診される場合に移動や移乗が難しいご利用者に関しては送迎のお手伝いをすることもある		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者の気持ちの活性化を図る為、地域のボランティアを活用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診は希望された方に利用して頂いている。かかりつけ医がある場合には継続して受診して頂いている。気になることがある場合には受診時にご家族様にお伝えしている	今までのかかりつけ医を使う利用者も少数いるが、ほとんどはホーム協力医を利用している。協力医の往診が月2回あり、他科、専門医への受診は家族対応である。その際には、日頃の様子を書いて渡しており、医療機関へは相互に情報提供して連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の様子を把握し何か変化がある場合には看護師に報告している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的の病院のケースワーカーの方と連絡をとりご利用者の様子を聞き早期退院ができるようお願いしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化・終末期に向けた方針は説明している。重度化した時のご家族の希望など確認はしているが現段階では考えられないという意見が多く、重度化した時に往診医よりご家族に直接今後予測されること等説明してもらっている	入居時にホームで出来る最大限のケアについて説明し、医師・家族・ホームとで連携体制が取れるよう心がけている。今年度は1名の看取りがあり、方針を話し合って対応した。職員には、状態に変化があった場合の対応について、定期的に伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は毎年研修で行っている AEDの設置は考えているが購入には至っていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。災害時のマニュアルを研修として行っている 非常食・備蓄品もご利用者、職員の3日分程は用意している	年に2回の訓練で、春は避難訓練、秋は通報訓練を行っている。今年度から、ご飯やカレー、水等の備蓄が用意されている。	今後は、夜間想定避難訓練と自主訓練の実施を望みたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者のプライバシーに配慮し、また人格を尊重した対応をしている。ご利用者の写真についての取り扱いは入所時にご家族に確認し、許可を得ている。職員の言葉がけなど気になることがあればその都度注意している	利用者を人生の先輩として尊重し、利用者それぞれの性格等に気を付けながら言葉かけや対応をしている。共有の場では個人的なことは話さないよう注意し、トイレ誘導等もさりげなくプライバシーを損なわないよう心がけている。書類は目に付きにくい場所に保管し、個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の思いや希望を伝えることが難しい場合にはこちらが予想をして希望に添えるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まっているが無理強いはずでご利用者のペースで生活して頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについて出来ない方は職員が手伝っている 月に1回は美容師の方に来て頂いている。カットだけではなく希望によってはカラーも行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は宅配してもらい調理は職員が行っている。簡単な野菜の下処理やテーブル拭き、食器拭きなどお手伝いしてもらっている。ご利用者の状況にもよりますが月に一度外食を行っている。時々ですが近くの喫茶店にモーニングに出掛けている	食材は業者より届き、職員が調理を行っている。利用者の状態によりミキサー食やきざみ食で対応している。食事レクでお好み焼きやサンドイッチ、おやつレクでホットケーキやゼンざい等を利用者と一緒に作っている。月に1度の外食では、好みを利用者に聞き、日頃食べられないお寿司やラーメンを食べに行くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の状況に合わせて食事形態、水分にはトロミ、種類を変えて工夫している。食事・水分量は職員把握し、変化があれば往診医に相談している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行うように誘導している。出来ない方は職員が介助して行っている。年に1回歯科医師に歯の検診をお願いしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、その方に合った誘導や声掛けを行いトイレでの排泄ができるよう支援している	職員は利用者の排泄パターンを把握し、それぞれに合わせてトイレ誘導を行っている。自立している利用者には、後から聞いて確認している。夜間はポータブル利用やパット交換、トイレ誘導等それぞれに対応している。パット交換の場合は、眠りを優先することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は排便状況を把握し水分(牛乳等)多めに摂って頂くように声掛けしている。また、便秘によって不穏な状況になることなども職員には理解してもらっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回は入浴して頂いている。希望される場合には時間・回数問わず入浴することもできる。体調不良の場合などには清拭で対応している。	一日おきに週3回の入浴機会があり、一人で入浴できる利用者は、見守りに徹している。リフト浴と一般浴があり、利用者の状況により対応している。入浴を嫌がる利用者には時間をおいて声をかけたり、職員を替えたりして対応し、無理強いはいしない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の方の生活習慣に合わせて就寝して頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が把握できるように内服している薬の一覧表を作成している。また、変化があれば申し送り、連絡ノートに記載し情報を共有できるようにしている。誤薬などの危険性についても研修で行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の体操やレクリエーション、お手伝いなどご利用者の方に合ったことを取り組んでもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩や買い物レクで外出など行っている。また、季節ごとに初詣、お花見、遠足(東山動物園)などにも出かけている	天気の良い日には前の道を散歩し、歩くのが難しい利用者はホームの外に出て、景色を眺めて気分転換をしている。近くの喫茶店へモーニングに行ったり、愛知牧場へ出かけたりすることもある。月1回の買物や外食を利用者は楽しみにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理ができる方のみ財布を持って頂いている。大きな金額を渡さないようにご家族には協力して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればして頂いている。また、帰宅願望が強い場合にはご家族に連絡し、電話でお話して頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁にはレクで行った季節の工作や習字など飾っている。過ごしやすくするためフロアの電気は真っ白な蛍光色を使うのはやめている	調査当日は、クリスマス飾りが賑やかに施されており、楽しい雰囲気が伝わってきた。大きなソファが日当たりの良い場所にあり、日向ぼっこをしている利用者がいた。大きな手作りのカレンダーが居間の中央にあり、習字の作品等も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファを置き一人になることができるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には今まで使っていた生活用品を持って来ていただいている。使い慣れたものの、思い入れのあるものを持って来ていただくことも可能	ご主人や家族の写真を飾り、鉢植えを自宅から持ち込んで世話をしている利用者もいる。作品の習字やアートフラワーを飾っている居室もある。利用者の状態に応じて何も置いてない居室があり、よくろぶ利用者の居室には、床に柔らかい敷物が敷き詰められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る方には、居室の掃除、洗濯機を使う、テーブル拭き、お盆拭きなどご利用者の状況に応じてできることを進めている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394900035		
法人名	有限会社 愛和		
事業所名	グループホーム サンライフハートネス 2F		
所在地	愛知県日進市米野木町追鳥47-1		
自己評価作成日	平成28年11月30日	評価結果市町村受理日	平成29年 4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2394900035-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしい生活の場となるように家庭的で暖かい生活空間として過ごして頂けるように生活をサポートしています。ご家族とも連携を取りご利用の方一人一人のペースに合わせた生活を提供しています。地域ボランティアの方、地域の保育園児との交流会など少しづつ外部の方と交流する機会を設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人研修では理念についての資料を渡して研修という形をとっている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に夏祭りにはボランティアで日本舞踊を行って頂きました。保育園児との交流会は今年も一度行いました。冬にはおこしものづくりを教えに地域の方に来ていただき皆様でつくりました。また、お米は地域の方から購入しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の認知症への理解はまだ得られていない部分もある。民生委員の方や包括の方にも協力して頂き、関わり合いも増えてきた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第3水曜日に行っている。色々な方からの意見や考えを聞かせて頂き施設に反映している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険改正時や事故報告書など介護関係の書類についてわからないことを教えてもらうことが多い		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には行っていません。入所契約時に身体拘束の同意書を頂いています		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者虐待については毎年必ず研修を行い、どのような行為・言動が虐待になるかなどの内容で行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方は現在見えませんが職員は理解していく必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に注意する点、重要事項について家人様に説明し、納得したうえで入所して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見や要望についてはできる限り施設に反映している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議などで職員の意見を聞き業務を進行しやすいようにしている。職員間での意見の食い違いなどは双方の話を聞き改善できるよう対応している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力、性格や勤務状況、利用者様のことを考えた支援、接し方などから給与や賞与を判断している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月違ったテーマの研修を行っている。穴埋め問題形式になっている資料を使っている。外部の研修については希望者のみ受けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会や市が主催の連絡会、交流会にて意見交換を行っている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約する前にご本人様にも施設内の様子や雰囲気を知って頂くために一度見学に来ていただくようお願いしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約をする前に見学に来ていただきご家族が日常生活で困っている事やご本人様の普段の様子など聞かせて頂いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学に来られた際にご本人様の普段の様子などを話聞かせて頂いたうえでグループホームよりも在宅で支援できそうである場合小規模多機能や訪問介護を薦めることもある。また医療の必要な方には有料老人ホームを薦めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者に対し一方的な関係になるのではなくご利用者の意見を尊重するように職員に伝えている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者とご家族との関係が希薄化することのないように面会や行事に参加していただくようお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者の制限は特にしていないので友人や知人が面会に来られることもある。ただし、ご家族の強い希望で家族以外の面会をお断りする場合もある		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルに関してはスタッフが間に入るなどして対応してみる 席の配置などで工夫している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も利用されていた方のご家族が施設に来所されることもある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握が難しい場合もありますが、本人様の表情であったり、仕草・行動などで判断している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所される以前の生活歴やサービスの利用状況などはご家族や他福祉サービスの担当者にお話を聞かせて頂く		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員はご利用者の日常の様子や心身の状況など把握し変化が見られた場合には職員から管理者に報告があり、管理者がご家族へ連絡している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月各フロア会議でご利用者の変化や個別ケアについて話し合いを行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や介護記録、また排泄チェック表や水分・食事摂取表等で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族対応で病院等受診する際に移動や移乗が難しいご利用者に関しては送迎のお手伝いをすることもある		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者のやる気、活性化を図る為、地域ボランティアを活用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診は希望された方に利用して頂いている。かかりつけ医がある場合には継続して受診して頂いている。気になることなどある場合はご利用者の受診時にご家族に様子をお伝えしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の様子を把握し、何か変化がある場合には看護師に報告している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に病院のケースワーカーの方と連絡を取りご利用者の様子を聞き早期退院できるようにお願いしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化・終末期に向けた方針は説明している。重度化した時のご家族の希望は確認しているが現段階では考えられないという意見が多く、重度化した時に往診医よりご家族に直接今後予測されること等を説明してもらっている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は毎年研修を行っている AEDの設置も考えていますが購入には至っていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っています。災害時のマニュアルを研修として行っています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者のプライバシーに配慮し、また人格を尊重した対応をしている 職員の言葉がけなど気になることがあればその都度注意している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の思いや希望を伝えることの難しい場合にはこちらが予想して希望に添えるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まっているが無理強いはずでご利用者のペースで生活して頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについて出来ない方は職員が手伝っている。 月に一度美容院のかたに来ていただき希望があれば毛染めも行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は宅配してもらい職員が調理している。簡単な野菜の下処理、テーブル拭き、食器拭きなどお手伝いして頂いている。ご利用者の状況にもよりますが月に1度外食を行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の状況に合わせて食事形態、水分にはトロミ、種類を変えて工夫している。食事量・水分量は職員が把握し変化があれば往診医に相談している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行うように誘導している。出来ない方は職員が介助し行っている。 歯科医師に歯の検診をして頂いている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、その方に合った誘導や声掛けを行いトイレでの排泄ができるように支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員はご利用者の排便状況を把握し水分(牛乳等)を多めに摂って頂くよう声掛けしている。また、便秘によって不穏な状況になることなど職員に理解してもらっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回は入浴して頂いている。希望される場合には時間、回数問わず入浴することもできる。体調不良の場合などは清拭などで対応している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の方の生活習慣に合わせて就寝して頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が把握できるように内服している薬の一覧表を作成している。また、変化があれば申し送り、連絡ノートに記載し情報を共有できるようにしている。誤薬の危険性についても研修で行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、リハビリ体操・タオル体操や散歩、レクリエーション、お手伝いなどご利用者に合ったことに取り組んでもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩や買い物レクなど行っている。また、季節ごとに初詣・お花見などに出かけている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方のみ財布を持って頂いている。大きな金額を渡さないようにご家族には協力して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればして頂いている。 また、帰宅願望が強い場合にはご家族に連絡し、電話でお話して頂いている。毎年、年末には年賀状をご家族に送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁にはレクで行った習字など飾っている。行事で撮った写真なども飾っている。過ごしやすくするためにフロアの電気は真っ白な蛍光色を使うのはやめている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファにおいて一人になることもできるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には今まで使っていた生活用品を持って来て頂いている。使い慣れたもの、思い入れのある物等持って来て頂くことも可能である		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る方には居室の掃除を手伝っていただいている。テーブルを拭いたりなどご利用者の状況に合わせてできることを進めている		